

ノーベル平和賞受賞

ICANと国会議員が討論集会

(核兵器廃絶国際キャンペーン)

共産党・志位委員長が発言

戦争被爆国の政府が、「核抑止力論」を続けていいのか

核兵器禁止条約の採択に貢献し、ノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のベアトリス・フィン事務局長らを迎え、与野党10党・会派との討論集会「核兵器禁止条約と日本の役割」(主催=核兵器廃絶日本NGO連絡会)が1月16日、国会内で開かれました。日本共産党の志位和夫委員長も発言しました。



▲握手する志位委員長(右)とベアトリス・フィンICAN事務局長

志位氏は、ICANのノーベル平和賞受賞を祝福するとともに、核兵器禁止条約が、核兵器を法的に「禁止」し、「悪の烙印(らくいん)」を押すことによって、それをテコにして核兵器の「廃絶」にすすもうという、「最も抜本的かつ現実的な道を示した歴史的条約」だと強調しました。

志位氏は、日本政府が「条約に参加すると『核抑止力』の正当性が損なわれる」としている点について、「核抑止力論」を突き詰めて考えると、「いざというときには核兵器を使用するという『脅し』によって安全保障をはかろうというものであり、広島・長崎のような非人道的惨禍を引き起こしても許されるという考え方」と厳しく批判。「日本政府はともかくも『核兵器の非人道性』を訴えています。『非人道性』を訴

えながら、唯一の戦争被爆国がこうした『核抑止力論』を続けていいのかがいま問われています」と述べました。

北朝鮮問題の解決にも禁止条約こそ力になる

また日本政府の「北朝鮮の核開発という情勢にこの条約はそぐわない」との議論についても、北朝鮮に核開発の放棄を迫るうえで、核兵器禁止条約が国際的な大きな力になると強調し、「北朝鮮問題の本当の意味での解決を考えても、核兵器禁止条約という道がもっとも抜本的かつ現実的な道です」と訴えました。

日本こそ核兵器禁止条約に参加を!!

私も討論集会で「日本こそ条約に参加を」と発言しました。フィンさんとは同い年で、同じく子を持つ親。日本も核抑止力論を乗り越えて!の訴えに共感しました。禁止条約に賛成する政府をつくりましょう。



参議院議員(東京選挙区選出)

きらよしこ

吉良よし子 日本共産党

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2018年1月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可